

令和元年度第7回協働支援会議

令和元年7月23日（火）午後3時半

新宿区役所本庁舎6階第4委員会室

出席者：藤井委員、関口委員、平野委員、土屋委員、石橋委員、松井委員、伊藤委員、
長谷川委員、山田委員、平井委員、高橋委員

事務局：地域コミュニティ課長、大庭主査、武井主任、丹野主任

藤井座長 これから始めさせていただきたいと思います。

お手元に議事次第が配付されております。これに従いまして進めさせていただきます。

議事の第1項は、協働事業評価書の作成について。定足数確認ですね。定足数は過半数です。定足数過半数以上達成と、会議は成立していると。

この議事を進めるに当たりまして、資料の確認をお願いしたいと思います。事務局、お願いします。

事務局 それでは、事務局より資料の確認をさせていただきます。

皆様のお手元に次第を初めとした資料を以下ご確認くださいと思います。

まず1枚目が、第7回協働支援会議（第2回協働事業評価会）と書いてある次第です。こちらのほうはございますでしょうか。

続きまして、得点が入っております資料1というものです。評価得点表がございませうでしょうか。

次に、資料2のほうを別で渡させていただきましたこちらのA3のカラー刷りの資料のほうがお手元にあるかご確認くださいと思います。

続きまして、A4の評価基準表の資料3。

そして、最後にこちらは（案）と書いてあります。見本のようなものなのですが、令和元年度新宿区協働事業評価報告書でございます。これが資料4となっております。

以上次第も含めまして5枚なのですが、手元のほうにおそろいでしょうか。

藤井座長 皆さん、お手元に今確認された資料、お手元にそろっていますでしょうか。ございますでしょうか。

それでは、議事のほうに移らせていただきます。第1の項目です。協働事業評価書の作成についてです。資料1についてですかね。評価書があって、その表や評価基準が示され

ていますが、この点について事務局のほうから。

事務局 それでは、事務局より説明をさせていただきます。こちらの資料1でございませけれども、先日皆様に行っていただきました協働事業のヒアリング後に提出をしていただきましたそれぞれのシートをもとに作成したものとなっております。

こちらなのでせけれども一応4点から。一応今回0点がなかったので1点までを得点順に並べかえたもの、項目ごとに並べかえさせていただいたものという形になっております。

まず右に全員の方の合計点を人数で割ったものが、今回は10人なのでちょうど10で割るという形になるのですけれども、平均点を記載させていただいております。本日なのでせけれども、左側の評価指標というところに太い文字で丸がつけられておりますが、こちらはこちらの各委員の点数の平均点を、例年ですと四捨五入という形でこちらの評価点を決めていたようですので、一応参考までにこちらの形で事務局より記載させていただいたものという形になります。

今回なのでせけれども、まずこちらの評価点です。この評価でいいかということはこの会議の中でご審議していただいて、まず点数のほうを固めていきたいというふうに考えております。

事務局からは以上になります。

藤井座長 これは今事務局から資料1について説明がありました。地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクトについての各委員の点数をそれぞれの項目について平均点を上げて、小数点以下については四捨五入。例年そのような扱いをしていたということで、参考までにその真ん中にある評価指標のところ、それぞれのスコア、4段階のスコアの平均です。ボーダーのところに印が付されていると。総合評価についても同じく付されているということです。

それから、資料2ですか。評価コメントのまとめ部分です。この点についてもちょっと。

事務局 では、こちらをあわせて説明をさせていただきます。こちらのコメントなのですが、先ほどの得点と同じように皆様に書いていただきましたコメントを事務局のほうでコメント案としてまとめさせていただいたものになります。こちらの各項目のコメントが、先ほど資料の4として示させていただきましたこちらの報告書で、現在調整中となっておりますページ、8ページからページ10ページまでのコメントとしてこちらのコメントがそれぞれに入っていくというイメージになっております。

今回こちらのコメントのほうは、あくまでも事務局としてのたたき台として、ご用意さ

せていただきましたので、例えばここの表現はこうしたほうがいいのかとか、ここにはこういうニュアンスを入れたほうがいいのかとか、そういったようなご意見等ございましたらこの場でご審議いただいて、お出ししていただければと思っております。

細かい話というか、例えば「てにをは」をこうしたほうがいいのか、そういったことに関しては、個別に事務局までメールですとか、何とかそういった形でご意見をいただければというふうに考えております。

以上です。

藤井座長 この資料2です。色分けがされていますけれども、これについても説明していただけますか。

事務局 こちらの各コメントなのですけれども、色分けについてですけれども、まず黄色で書かせていただきましたコメントが、評価に関するコメントになります。こちら青字で書かせていただいたものに関しましては、支援会議のほうから出た、こうしたほうがいいのかというようなアドバイスだったり、こういったところをもっともっと検討するべきだといった意見という形になっております。

藤井座長 赤字も入っているんじゃない？

事務局 赤字はほとんどないのですけれども、最後の総合評価のところのコメントまとめのところだけでございまして。

藤井座長 5ページですね。

事務局 はい、5ページでございます。こちらは昨年度のこちらの報告書にも出てきた同じ表現なのですけれども、文章全体の流れから入れたほうがいいのかというふうに事務局が判断して入れさせていただいたものになります。

藤井座長 これはこの点についてこれ、ざっくりと時間をとって各委員に改めて目を通させていただいてご意見を承るというか、一つ一つ事務局のほうからコメントを見ていって。

事務局 まず先ほど申し上げた点数のほうを確定させていただいた後に、コメントのほうを事務局で読み上げさせていただきますので、その後にご意見等をいただければというふうに思っております。

藤井座長 はい。点数の確定ね。

事務局 そうです。

藤井座長 これ資料1、2ですが。

事務局 まず資料1のほう。

藤井座長 ですね。さっきも言いましたけれども評価指標、平均点として示されていますがこれについていかがでしょうか、ご意見。この平均点で評価指標も出しているということですから、これでよろしいでしょうかということですね。

事務局 そうです、はい。

藤井座長 平均点以外に何か上げる数としてあるわけでは？

事務局 ないです。

藤井座長 ないですね。こういう結果になっております。よろしいでしょうか。

山田委員 はい。

藤井座長 それでは、点数について、評価点についてこれで決定ということですかね。改めてですが。

関口委員 総合評価ももうCで確定ということでもいいのですか。

藤井座長 そうということですか、今。資料1全般について、評価指標、平均点、そして総合評価Cです。3、2、Cということで、これも含めたことですがよろしいですか。

ご確認をいただいたということで評価点を決定させていただきました。

事務局 それでは、各項目について再度ご確認をさせていただきます。今回は地域の担い手「ごっくんリーダー」による「食べる力」推進プロジェクトなのですけれども、1、計画についての評価は2。2、実施についての評価は3。3、結果についての評価は3。最後4、改善につきましたの評価は2ということではよろしいでしょうか。

藤井座長 うん。

事務局 最後、総合評価になるのですけれども、Cという形で一部改善が必要であるが、おおむね適切であるという形で評価、支援会議として決定していただくということではよろしいですか。

藤井座長 はい、そういうことですね。

では、ちょっと重ねて言いましょうか、もう一度。

事務局 では、続きまして資料2のコメントの内容に移らせていただきます。コメントに関してなのですけれども、各委員からいただいたコメントなのですが、すべて読み上げるのは時間の関係上厳しいので、まとめコメントだけをまず読み上げさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、1、計画についてのコメントになります。本年度の計画策定に当たっては、

前年度に指摘した「事業全体の進捗管理」や「目標達成に向けた課題・問題点の整理」が行われ、事業計画に反映されています。また、平成30年度は「ごっくんリーダーの活動継続」が課題の一つでしたが、リーダーのモチベーションを維持する「リーダーの集い」を計画に取り入れた点や、新たな指標として「最長発声持続時間」を設定。こちら「した」が抜けておりましたので補記していただければと思います。「最長発声持続時間」を設定したこと、さらに、活動場所によっては使用できなかったDVDから、より安価で手軽に使用できるCDを作成することを計画に取り入れるなど、工夫や改善も見込まれます。

さらに、「講習会の参加」のみならず、「体操の継続及びごっくんリーダーの活動状況の確認」を成果を確認するアウトカム指標として設定するなど、効果測定を行う上での改善も見込まれます。

一方、本年度は3年目の事業となることから、育成した「ごっくんリーダー」について、今後どのようにフォローを行っていくか、さらなる広がりを持って、どのように地域展開を広げていくのか、3年間を通じた「ごっくんリーダー」の活動状況や波及効果を把握して、アウトカム指標の整理を行うなど、提案事業終了後を見据えた本事業の展望・展開を考えていくことが必要です。

続きまして、2、実施について読み上げをさせていただきます。

藤井座長 一つ一つ、項目ごと見てきたほうがいいでしょう。それでは、今一つ一つ9項目のまず第1の計画について、コメントまとめを事務局のほうから読み上げさせていただきました。このコメントまとめについては、事務局サイドで委員の各位から比較的多く寄せられた内容、それを中心に全体の整合を図りながらまとめたということです。

そして、先ほど前半の説明でありましたように黄色の部分は、前半部分でわかるところはポジティブな評価、いい評価。その後半のところでもまとめられている青色の部分については課題、あるいは今後努力が期待されるというそういう内容がここにまとめられています。

この資料2の各委員のコメントで、委員各位から寄せられたコメントがこうあるということをごここに列挙しているわけですが、この中でもそれぞれ委員の方のコメントをいただいているわけですが、改めてこのコメントまとめ。これはあくまでドラフトということで、ぜひこのコメントは取り上げてほしい。ご自身のものはもちろんですが、ほかの委員の方のコメントを読まれてこれはいいコメントだから、この点は強調したほうがいいのか。こういうご意見がございましたら言っていただければ。

平井委員。

平井委員 平井ですけれども、前回のときも発言したのですけれどもこの成果。アウトカム、アウトプットというのはどれがアウトカムで、どれがアウトプットかというのは、ちょっとよくわからないのですけれども、ここに書いてあることで言うと、この協働事業のそもそもの話になってしまうかもしれないのですけれども、体操の継続とごっくんリーダーの活動というのがこのアウトカムと書いてあるのですけれども、ちょっとよくわからない。本来これは摂食嚥下機能を向上させることがアウトカムだったり、それに付随して最長発声持続時間というのがアウトカムだと思うのです。この書き方が、捉え方が違うのではないかと思うのです、このアウトプットとアウトカムの。

藤井座長 これはどうですか、アウトプット、アウトカムの捉え方について。

平井委員 これをアウトカムにしてしまうと、何か活動すること自体がアウトカムになってしまうような。もういい、とにかくやればやるほど成果が上がったということになってしまうのですか。

本来の目的というのは摂食嚥下機能の向上というのなのですよ。何かリーダーをいっぱい増やしたり、その何か体操をいっぱいみんなでやったりすることがもう最大の成果になってしまって、あとはどうでもいいみたいになってしまって。そこ、捉え方がちょっと違うのではないかと思うのですが、そこの整理をしていただきたいと思います。

藤井座長 では、補足的に高橋部長。

高橋委員 おっしゃるようにアウトカムというのは、もう本当にこの事業の最終目標ということですので、誤嚥性肺炎を併発とかそういったところが本当のアウトカムになると思いますけれども、健康寿命の延伸ですとか、大きく言えばそういったことまでアウトカム指標ということになってしまうのですが、そうやって考えるとこの活動数を、継続数をふやすというのはアウトプットに近いもので、なかなかアウトカム、アウトプットという言葉を使うと難しいのかなという気がして、そこは余りそういうことにこだわらずに表現したほうがいいのかというふうに思いました。

藤井座長 伊藤委員。

伊藤委員 伊藤ですけれども、英語を使ってしまうから難しいので、もっと簡単に言うところ、手段がごっくんリーダーの育成で、成果というかは食べる力の推進プロジェクト。それに含まれるものが成果として出てくるわけなのです。

だから、一面言うところの書き方の中でごっくんリーダーがいっぱい出たと捉える場合も

出てきているし、今部長さんが言ったように、だから今本当に整理するのが必要かもわからない。それを整理すれば済む、そこは。

平井委員 そうです、捉え方だけなので。

伊藤委員 そう、そう、そう、そう。

平井委員 この文言を整理してだけでいいと思います。

伊藤委員 この全体から言えば問題点というのは、この出てきたごつくんリーダーをどのように集合体として活動させるか。その人たちに何を望んでいくかということを書いてあると思うのだ。という意味。

藤井座長 平井部長がおっしゃったのもアウトプット、アウトカム、ここはそれをきちんと整理して評価に文言をつくる時に反映したほうがわかりやすいと。

平井委員 反映したほうがいい。それとあと今2人の委員から出たように無理してアウトカム、アウトプットを。

関口委員 使わないほうがいいのです。

伊藤委員 そう。

平井委員 別に成果とか何か指標とかにして。

伊藤委員 成果とに分けて。

藤井座長 確かにそうやるのが一番いいですね。

平井委員 厳密に分けることはできないし、だからといって摂食嚥下機能向上とかはかれないし、それはわからないので、そこをちょっと少しぼやかしてやったほうがいいと思います。

藤井座長 どうですか、これについて事務局のほうで。

事務局 そうですね、先ほどおっしゃったように文言としてわかりづらいというところがあるということですので、そちらの文言のほうを整理させていただいて、次また出させていたいただきたいと思います。

藤井座長 アウトプット、アウトカムという言葉。

事務局 やめます、後のも控えます。

山田委員 ちょっとまたこれ、後段でも、3ページあたりでも。

伊藤委員 いっぱい出てくるでしょう、同じのが。

山田委員 全体を通していただいたご意見を踏まえながらということかな。

事務局 かしこまりました。

藤井座長 評価というとなついたりわかりやすいアウトプット、アウトカムという何か入門編で使う。そうですね、自前の言葉で評価する、やるのがいいかもわかりません。

ほかに。次からは変わると思う。もうこの片仮名文字がなくなる。

関口委員 3パラ目なのですけれども、青字のところはこれ1段落全部が一文なのです。ちょっとどこかで区切っていただいて、主語、述語関係とかがわかるようにしていただいて。もうちょい何か、言いたいことはわかるのですけれども、ちょっとやっぱり長過ぎるので。

藤井座長 それはそうです。よろしいでしょうか、ここをお願いします。

いいですか。そのほか、いかがでしょうか。これ、先ほども言いましたが、まとめましたのでいろいろ過不足もあるかと思うのです。この点は強調して入れたらいいのではないかと、そういうご意見がございましたらお願いいたします。

関口委員 あと、細かな文法チェックが……、恐縮なのですが、今回結構鍵括弧表記が非常に多いような気がしていて、例えば1パラ目、最初から前年度に指摘した「事業全体の進捗管理」「目標達成に向けた課題・問題点の整理」とか、それぞれこの後以下同文で何回も鍵括弧表記がある。ごっくんリーダーとか固有名詞はしょうがないと思うのですけれども、まあ、いいといえばいいのですけれども、何かもうちょっと平文になるといいかなと。

藤井座長 鍵括弧は、よく言うのは格別の含意をそこに込めるとき、この字の分が表記するのはちょっとなかなかやっかいだからというので使われる例が多いのですが、実際に関口さんが今おっしゃったように鍵括弧は余り使わないほうがいい。明確な引用であつたりとか固有名詞みたいな、そういうのは別だけれども、余り鍵括弧、鍵括弧でやっていると、いろんな意味の含意があるような誤解も与えますし。普通の文にしてもいいのではないかなと思います。

関口委員 ごっくんリーダーに鍵括弧をつけてしまうと何回も出てくるので、これごっくんリーダーは。

藤井座長 まあ、それは。ほかに。よろしいですか。

では、これもかなりご意見が出たので反映をしていただけたと思います。

では、その次、第2の項目、実施についてです。では、お願いします。

事務局 それでは、第2の実施について読み上げさせていただきます。3年目の事業ということもあり、NPO団体と区担当課がそれぞれの強みを生かしながら、協働して事業

に取り組んでいることは高く評価できます。

事業の実施に当たっては、団体と担当課の間で、「年間スケジュール」や「事業の進捗管理表」を作成するとともに、「事業推進のためのプロジェクト推進会議」を定期的に行い、積極的な情報共有や対等の立場で意見交換を行いながら、事業を進めてきた状況が確認できます。

また、団体が進める手法によって、前年度よりリーダー発掘や地域での広がりが進むとともに、担当課の働きかけにより、区の進めるほかの施策（いきいき体操、100トレ）との融合が実現しており、互いの有する専門性を発揮し、協働による相乗効果があらわれる取り組みとなっています。

「区民への普及啓発事業」、「講習会」など、いずれも当初の計画どおり事業を進めており、目標参加人数を大きく上回る実施状況や、関係諸機関との協働により、区内で行われるイベントへの参加等につながりができたことは、想定以上の効果があらわれたこととして評価できます。

一方、受講者からのフィードバックの反映や、地域行事（祭り、納涼会、防災訓練など）をきっかけとした普及啓発活動の地盤づくりなど、今後を見据えた取り組みを進めていくことが必要です。また、幅広い年代への普及を考えた際に、小学校での「ごっくん体操」実施については、「食育」や「福祉教育」などとあわせて行う工夫も必要であると考えます。

以上です。

藤井座長 以上コメントまとめです。実施、項目2のです。これについてご意見ございますでしょうか。

これも先ほどのところで鍵括弧について、字の分にできるところはどんどん削っていくということ。

伊藤委員 コメントまとめの4行目のところで、事業の実施に当たっては、団体と担当課の間でというのは、これは必要ないと思います。上の段で言っているの、それがどんなことを次の段で、それが細かく出ているのが年間スケジュールやと言えつながるので、この事業の実施に当たっては団体と担当課の間では、これは要らないのじゃない？

藤井座長 では、もう上の文章をそのままつなげるといいますか。

伊藤委員 うん、そうです。やっていることと同じだから。

藤井座長 ちょっとここ工夫しなければいけないかもしれないですね。文自体としては年間スケジュールや作成、誰がというのがこのままではちょっと主語がないです。

伊藤委員 上の段のほうでNPO団体と担当課が出ているので。

藤井座長 が、それぞれ強みを生かしながら。そうか、そのままもうつなげるのですね。年間スケジュールや作成するとともに。

伊藤委員 個別にやっていることが出てきている。

藤井座長 積極的な状況が確認できたと。上の文とつながることで、主語はそのまま上の文の主語を使うということですね。

そのほかございますでしょうか。

平井委員 よろしいですか。青の網掛けのところの2行目なのですけれども、普及啓発活動の地盤づくり等とあるのですが、地盤づくりというのはこれ要らないかもしれません。何か意図があるのですか、地盤づくり。

藤井座長 この。

土屋委員 これ、年間スケジュールのところに書いてあったのです、自分たちが。

平井委員 そうなのですね。

土屋委員 ええ。だから、何なんだろうと。

関口委員 基盤じゃないですか。地盤と余り言わないです。

藤井座長 言わないですね。

平井委員 ちょっと基盤としたときにその基盤というとは何かちょっと変。

土屋委員 うん、だから意味がよくわからない。

伊藤委員 自分では基盤だろうね、つくる、盤をつくるのは。

平井委員 基盤。その基盤としたときもその基盤というのは何ですかという気もするのです。

藤井座長 よく行政用語で基盤整備。

平井委員 事業で使っていなかったもので、総合的なものだから使うのですけれども。下地をつくると。

藤井座長 下地をつくる。地盤ではないような気はします。

平井委員 地盤、基盤、基盤ですよ。

伊藤委員 必要としていることだから、基礎づくり。

藤井座長 基礎づくり。

伊藤委員 基礎づくりとか基盤づくり。

平井委員 基盤づくり。こういう意味には、意味はこういう地域行事において普及啓発

活動をやるということを仕組みとしてちゃんとつくっていくといいかなど。

土屋委員 そう、自分たちが事業スケジュールでやると言っていたのだけれども、やっていないのではないかということが言いたかったのです。

平井委員 で基盤という意味。

事務局 そこはちょっと表現を修整してみます。

藤井座長 ほかはいかがでしょうか。ほかはどうでしょう、お気づきになる点はございませんか。

関口委員 はい。

藤井座長 いいですか。では、その2番目の方法を除いて3番目の結果です。では、結果についてコメントを読み上げて。

事務局 それでは、3番目、結果についてコメントを読ませていただきます。

「講座などの開催数」や「参加者数」、「『ごっくんリーダー』登録者数」など、主要成果指標は当初の目標を大幅に上回ることができました。

また、事業参加者に対するアンケートでは、講習会の内容の理解度や誤嚥予防に対する意識の変化などの効果測定も行われており、参加者から高い評価を得ている状況も確認できました。

講習が行われている現場も一様ではなく、会場に合わせた対応が必要なことや、対象者の拡大に向け、デイサービスを支援している福祉職を対象に講習会を実施することによる元気高齢者以外の虚弱高齢者の参加を図る活動も評価できます。

新宿区全体に対する効果となると、短期間では達成が困難な面もあるかもしれませんが、期待の持てる結果が示されたものと評価します。

一方、アウトカム指標として設定した「体操の継続状況」や「『ごっくんリーダー』認定後の各リーダーの活動状況」など、事業の実施結果について、十分に確認できていない部分もあります。

また、アンケート結果からは、男性参加者が極端に少ないことが示されており、男性をいかに事業に参加させるかなど、本事業にさらに多くの人に関心を持ってもらうことが必要です。

以上です。

藤井座長 いかがでしょうか。ここでもアウトカム指標というまだこういう文言が使われているのですが、これは次回から工夫するとしてほかにご意見やご指摘は。

伊藤委員 同じポイントまとめのところの後ろの部分で、一方アウトカム指標からのところの段で十分に確認できていない部分もありますという、何かもつとほかにある。ない、ない、ほかにないじゃんになるから、だからここは「が」でいいんじゃない？

事務局 ああ、済みません。申しわけございません。

藤井座長 今おっしゃったのはこの青いところですね。

伊藤委員 の3段目。

藤井座長 二つ目のパラグラフの「一方」で始まるところの一番最後のところ。文の最後、センテンスの最後、十分に確認できていない部分もありますということですが、「も」と使うとその前にも指摘があってプラスということですが、これはないので「が」、「部分があります」と。

関口委員 あと3パラ目なのですけれども、講習が行われている現場も一様ではなく、会場に合わせた対応が必要なことやというのが、ちょっとやっぱり続きが悪いような気がしていて、「会場に合わせて対応を行っていることや」とかでもいいのではないですか。

藤井座長 会場に合わせて対応を行っていることや。

関口委員 と思うのですけれども、書いた方が言いたかったことは。つまり要は同じ会場でやっていないでいろんなところにかかわっていったりとかして、その場、その場で柔軟に対応しているみたいなことを言いたかったのではないかと思うのですけれども。

藤井座長 必要なことやという、その十分それを満たされていないのではないかと、そういうことが。でも、そうではなくて、もう既に対応しているということを強調的に示している、今おっしゃったように「対応していることや」のほうがいいのではないかという意味。なるほど、そうですね。

ほかはいかがでしょうか。今の点は事務局のほうはよろしいですか。

事務局 はい。

藤井座長 ほかにいかがでしょうか。もう繰り返しになりますが、この点を強調したらいいのではないかということはあるですか。

よろしいですか。

関口委員 はい。

藤井座長 それでは、次の4番目の項目、改善の項目について。それでは、コメントまとめ、お願いします。

事務局 それでは、4、改善です。これまでの事業の実施状況や評価の内容などを踏ま

え、さらなる普及のため、CDの作成や歌詞幕を追加するなど、創意工夫がなされていることが伺われます。

また、定期的な講習会の実施を全区的に行う検討に入ったことも事業改善の視点から評価できます。「ごっくん体操」を講習会時だけのもので終わらせないために、日常的に取り組める場をふやしていくことや「ごっくんリーダー」自身の自主的な活動を支援することで活動の場を広げ、その結果、継続的な取り組みが区内各地域に広がりつつあることも評価できます。

ヒアリングの際に指摘された参加者の女性への偏りや、「ごっくんリーダー」の活動状況の把握、講座参加・普及活動のインセンティブ設計など、今後の事業改善に向けての課題についても認識されている状況が確認できました。

一方、過去2年の事業の参加者に対して、その後の「ごっくん体操」の取組状況を確認し、フォローアップする取り組みや、「3結果」の欄にも記載した、男性の参加者が極端に少ない中で、男性の参加者をふやす取り組みや男性に体操を行ってもらうための仕掛けづくりを実施していくことが必要です。

また、本事業が根づいていくためには、地域の中で活動する団体や他の関連部門との交流・連携を一層重ねていくことも求められます。

さらに、今後、活動者に活動継続していただくためには「楽しい」「自分が必要とされている」と実感できるような活動内容の工夫が必要です。

健康分野での協働事業でもあり、3年間で結果を出すのは難しい部分はあるものの、団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考にさらに改善を図っていただきたいと考えます。

以上です。

藤井座長 この点も先ほど来ご指摘のある鍵括弧です。

そのほか。関口委員。

関口委員 5パラ目なのですけれども、他の関連部門との交流・連携というのが、これだけだったら区役所の関連部門みたいなのか、ほかの団体の関連部門を言いたいのか。あるいは、何か別の大学なのか何なのかわからないので、区役所なら区役所の他の部局とか、何かそういう何か補足していただけるとわかりやすいかなと。

藤井座長 ここはどういう意図なのですか。

事務局 もとは区役所ですとか社協さんですとかそういったいろいろなこういった事業

に関連しているところと関連した。

藤井座長 庁内のということですか。

事務局 そうですね。区役所であったり、社協さんであったり、それから等というニュアンスなのですけども。

藤井座長 そこをもうちょっと。

事務局 またちょっと具体的に入れさせていただきます。

藤井座長 ちょっと明快に示したほうがわかりやすいと思います。

ほかはいかがでしょうか。伊藤委員。

伊藤委員 コメントの一番後ろのところ、最後のところで団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考にさらに改善を図っていただきたいと考えますというよりも、改善を図ることが必要ですとか、図っていただきたいで切ってしまうとか、考えますと余りにも。

藤井座長 思われるとか、考えますとか、伺えるというのは、そういうのは入れないというのがそのコメントの原則なのです。だから、主観的な要素を入れたら反することになるから、そうですね。一番最後のところですね、今おっしゃったのは。

伊藤委員 はい。

藤井座長 コメントの一番最後で団体と区で知恵を出し合い、ヒアリングでの提案等も参考にさらに改善を図っていただきたいと考えますというこの語句のところを必要があると。

ほかは何か、よろしいでしょうか。よろしいですか、よろしいでしょうか。

おおむねよくできていると了解いただいたということですね。

それでは、最後の総合評価の項目についてです。コメントまとめ、この点では今また読み上げていただきますが、これまでと違って赤字がありますが、赤字については先ほどご説明いただいたように、昨年度の評価書とほぼ同様の表現としているところということです。

お願いいたします。

事務局 では、読み上げます。超高齢化社会が到来し、「人生100年時代」への社会的な取り組みが進みつつある中、加齢とともに衰えがちとなる一方、人間が生きる上で欠かすことのできない「食べる力」を初めとした健康増進を目指す本事業は、高齢者のQOLや健康寿命伸長にも貢献する重要な事業です。

3年目となる今年度までに、普及啓発活動の担い手となる「ごっくんリーダー」の登録者数は216名までふえました。また、新宿区らしさも盛り込んだ「新宿ごっくん体操」のDVDやCDといったツールも完成し、講座やイベント等を通じた活動も地域的に広がりを見せ、NPO団体と区との協働による「区民の摂食嚥下機能向上のための基盤づくり」が順調に進んでいます。

計画策定や事業実施といった場面に置いても、団体と区との間で「事業推進のためのプロジェクト会議」が定期的開催され、積極的な情報共有や意見交換が行われた結果、フレイル予防を目的とした「新宿100トレ」とのコラボレーションにも取り組むなど、高齢者のQOLや健康寿命伸長に向けて、ともに取り組む姿勢が評価できます。

さらに、「ごっくんリーダー」登録者数や講座参加者数の主要成果指標は目標を大幅に上回っていることや、アンケート結果では講座参加者から高い満足度を得られている点も高く評価できます。

また、これまで取り組んできた「ごっくんリーダー」の増員や地域的な広がりにあわせて、今後は、リーダーの活動状況や、講座参加者のその後の活動を継続的にフォローし、摂食嚥下機能の維持向上につなげていくことが大切です。そのためには、講習後のリーダーたちへの場の提供や講座参加後の活動データをしっかりと収集することも必要です。

現在、高齢者の健康に関するさまざまな取り組みが、区や社会福祉協議会、地域のコミュニティ団体によって行われています。本事業で養成された「ごっくんリーダー」には、今後、一層、こうした取り組みと積極的なかかわりを持つことを期待したいと考えます。また、男性参加者が極端に少ないことへの対応等の改善や、「動画サイトの活用」や「健康ポイント」との連携などによる、より多くの参加者を得られるさらなる仕組みづくりについて期待しています。

藤井座長 が総合評価に関するコメントまとめですが、これについてご意見ございますでしょうか。

これは結構総合評価、実際枚数が多いです。いろんなそれをうまくこうやって集約されたということです。改めてですけれども全体、重複部分については集約して、全体の整合性を図りながらコメントをまとめられたということなのですが、ご一読いただいてこの点がちょっと集約過程でこの点は漏れ落ちているのではないかと、ここはどうかというようなご意見がもしあればおっしゃっていただきたいと思います。この文章についてもご助言があればお願いします。

土屋委員 土屋です。これ最後の総合評価なので、これまでのものは上手にまとめてくださったからいいと思うのですけれども、最終的な総合評価ということで、今後の多分団体さんの活動とか区の取り組みにも参考になるものだと思うので、こんなに小さくまとめなくて、もう少し皆さんの意見を具体的に書いていってはいかがでしょうかと思います。

藤井座長 もっと、余り省略し過ぎないで、重なっているところはそうではないのですが、多様な評価をそれをここに載せてはどうかと。

土屋委員 そうです。皆さん割合具体的に。

藤井座長 具体的に。

土屋委員 こういうふうにやったらどうでしょうかというような提案も書いていらっしやるので、そういうこともちゃんと書いてあげてのほうがいいのではないかなと思いますけれども。

藤井座長 いかがでしょうか。具体的な指摘とかがあって、それについて取り上げる。総合評価に反映させるように入れば説得的になるのではないかと、そういうこと。

事務局 そういうふうに検討してみたいと思います。

山田委員 座長、よろしいですか。

藤井座長 山田委員。

山田委員 資料4、後ほどのテーマになるかと思うのですけれども、ごらんいただければと思うのですが、これは本日ご議論いただいている評価について評価報告書としてまとまってくるものになります。8ページをごらんいただければと思うのですが、こちらがこの8ページの前にあれかな。8ページからか。6番、項番6、協働事業の評価結果ということで、ここで総合評価としての評価結果が入り、ここに評価コメントも入って、これは別にこのページの下段だけでおさめる必要は決してなくて、過去のやつも含めて次のページ、今、今回で行けば9ページの上半分ぐらいまで使ってというのがあったかと思います。

ご指摘いただいたせっかく3年目ということもある中で、次年度以降にもこういうことをやったらいいねというようなところも具体的にいただいているところもありますので、今回たたきとしてお示したこのコメントのまとめというところを基本に置かせていただきながら、ここからなお具体的に何が書けるのかというあたりのところを少し盛り込ませていただいて、ボリューム感としてはこの8ページとその次のページの上半分ぐらいでおさまるぐらいかなというあたりのところがいい感じのボリューム感があると思いますので、ちょっと事務局の筆の力に期待したいと思います。

藤井座長 実際そうですね。この資料4の実際の分、報告書8ページのところに協働事業の評価結果、結構なスペースが置かれているのです。さらに次のページまでということであれば例年の事務局のあたりです。やっぱりかなり、今さっき土屋委員からもお話がありましたけれども、盛り込めることは盛り込んで示せばいいということをおっしゃっているという気がしますでしょうか。

結構書かれていますものね、各委員がコメントを、3ページにわたって。

ほかはいかがでしょうか。

関口委員 関口です。結局順番的には総合評価が一番最初に来るのでページはいいのですけれども、初出のものでちょっとわかりづらい専門用語的な、例えばQOLとか略してしまっていますけれども、クオリティー・オブ・ライフであるとか、その意味とか、あとフレイルというのめだいぶ浸透しているとは思いますが、フレイルとは何ぞやという方とか、普通の区民の方が読んでわかりやすいように注釈をつけるないし、そういうご説明をちょっとわかりやすくしておいたほうがいいのかと思います。

あと区の事業として出てくる100トレとか健康ポイント制度というのも特に注釈なく出てくるのですけれども、100トレとってわかる人とわからない人がいると思うので、100トレは云々、新宿区が取り組んでいるこういったものとかをちょっと下に入れていただくというようなことを総合評価のコメントでやっておいていただければ、あと次のページに出てくる各項目のコメントで出てきても、初出で出ていれば読みやすいのかなというふうに思いました。

藤井座長 これはそのとおりだと思います。さっきも鍵括弧の扱いでいろんな含意をそこに込めてしまう。それを説明するようにということです。

ほかにご意見。高橋委員。

高橋委員 健康部長です。健康寿命の伸長という言葉が2回出てくるのですけれども、1段落目の4行目と3段落目の5行目なのですけれども、新宿区の健康づくり行動計画とか総合計画でいろいろ健康寿命の延伸というふうに言っていますので、間違いではないと思うのですけれども、「延伸」のほうに統一していただけたらと思います。よろしく願います。

藤井座長 よろしいですか、延伸で。そのほうが、そういう大切ですね、それは、用語の統一というのは、行政の文章になりますから。何かご指摘やご教示があったらお願いいたします。

いかがでしょうか、よろしいですか。これについては、またドラフトとして出るのですか。もうこれはお任せになるの？

事務局 8月2日の次回の会議の際に、一応こちらの内容のものに本日お配りした資料4に落とし込んだ形のものをご提供させていただきますので、そちらのほうで再度ご協議いただければ。

藤井座長 で検討して、またリライトすることは可能だということですね。はい、ということです。本当に貴重なというか、いろんなご意見をいただきまして本当によかったと思います。ありがとうございます。

それによろしいでしょうか。この事業評価書についての作成について、8月2日の会議で改めてこの案として資料4に出てきます、あります令和元年度新宿区協働事業評価報告書提出とある。これの形式、フォーマットで改めて出してお意見を承るということになったと思っています。

それで、その他についてですけれども、その他について。

事務局 先ほどお配りさせていただきました資料。3はあくまでも参考という形なのですけれども、資料4について少しお話をさせていただければというふうに思っております。

こちらの報告書なのですけれども、体裁として昨年度出させていただきました報告書とまた同じ体裁でつくっておりますので、もし例えばここについても何かここをこうしたほうがいいのではないのか、このフォントだとちょっと見にくいから変えたほうがいいのではないかみたいなご意見がありましたら、事務局までいただければというふうに思っております。

それとあわせて今後についても説明をさせていただきたいと思っております。先ほど座長のほうからお話がありましたように、次回8月2日金曜日に第3回の評価会のほうを実施させていただきたいと思っております。こちらのほう、机上のほうに通知のほうを既に配付させていただいているのですけれども、先ほど申し上げましたようにこの資料4の形で報告書のほうをつくらせていただいたものを皆さんにごらんいただくという形になります。

最終的なのですけれども、9月9日に区長に今年度の協働事業評価報告書のほうを提出いたしますので、それに向けていろいろとご協力いただければというふうに考えております。

藤井座長 今ありましたが、今後の評価会の日程について。8月2日の第3回の評価会において、今回資料4で出されたこのフォームでの原案が出され、さらにこれについてご

審議、ご検討いただくということになっています。

それとあわせてこのフォームです。体裁も含めてということだろうと思います。あとビジュアルだったり、もっとわかりやすくしたほうがいいのではないかといろんなご意見があると思いますが、これについてのご助言もいただけたら、ご提案もいただけたらと。

そして、そこでこの協働報告書の案をここで決定する、8月2日。それで決定というか。

事務局 もう一度、ご意見を伺って、最終案というの確定版みたいな形でさせていただければと考えております。そこで最終案というところで作成しまして、それを皆様に提出していただく。

藤井座長 9月9日に区長に提出。

事務局 はい。

藤井座長 ということですが、何かご質問とかございますでしょうか。よろしいですか。

平野委員 5ページのさっきの青いやつの8行目で、下から8行目で協働参加後の活動データをしっかり収集することが必要ですということは、これは誰が収集するという意味でしたか。これをお教え願えれば。前回は議論になったと思います、データの収集。これは誰が主体となるのでしょうか。

藤井座長 今平野委員からのご指摘は、資料2の5ページのコメントまとめの下から2番目のパラグラフ。また、これまで取り組んできた「ごっくんリーダー」の増員、この点についてですが、この最後のところです。その段落の最後のところ、そのためには、講習後のリーダーたちへの場の提供や講座参加後の活動データをしっかりと収集することも必要ですとありますが、この主語が欠けていると。これはこの主語は何ですか。

事務局 こちらののですけれども、区と団体、両方になっていると捉えていたのですけれども。

藤井座長 区とその団体、両者。

事務局 はい、両者。

伊藤委員 協働事業推進者だ。

藤井座長 ですね。これちょっと、これもう一度これ明確に、明快にお答えいただけますか、この主語。誰がする必要があるか、収集するのか。

関口委員 この書いた方に聞く。誰かというのはあれですが、いらっしゃると思うので聞いていただいたほうがベターかと。

藤井座長 そうだね。活動データをしっかりと収集する、誰が収集する。どこでデータ

をとるのかも。

高橋委員 私、団体では、そういう意味で。

平野委員 たしか前回これ、平野です。

藤井座長 平野委員。

平野委員 前回議論になったと思うのですがけれども、この事例自体がどうやれば健康に資するだとか、健康施策にどういう位置づけがあるのかという話だったから、それはデータをとるか、とらないかの話、議論があったかと思うのです。そこのものも含めてこのコメントをもし入れられるとすると、この団体は3年で事業がもう終了するわけだから、その後の効果をはかるのは多分彼らはできないから、それが誰がということですよ。

山田委員 では、よろしいでしょうか。

藤井座長 山田部長。

山田委員 山田です。先ほど事務局からもありましておとり報告書の形で当支援会議として内容を固めて区長に提出するというのが9月9日ということで、少なくともまだ今年度の後半、下半期のところは残っているのです。ですので、ショートレンジで見た場合には、区及び当該団体として今年度下半期残りの事業期間に当たっては、こういうことも双方でまずやっていくことが必要ですよというのは、一つそこはこの事業の枠組みの中で書き入れる部分は1個あるのだと思います。

その上でそこから先のところということになると、なかなか無理がある。事業のたががはずれてしまった中で認定したそのごっくんリーダーについて、その団体としてどこまでフォローアップしていくつもりでいるのか。あるいは、区として、今ちょっと平場で全然事前相談なしにしゃべってしまっていますけれども、どこまでフォローアップができるのか、できないのかというあたりのところかなというふうに思います。

藤井座長 その意味ではここで主語と前のところで明快に限定しておくほうが説明としてはわかりやすいということですかね。区及び当該団体がその第2の機会にということですよ、ということですね。それを明確にするということではいかがでしょうか。

平野委員 おっしゃるとおりロングターニングではなくてショートターニングのことだけしか示せない、この事業に対して継続するののかということになってくるかと。もしそれが、腹がないならばそれを、名義を絞ったほうがわかりやすい、今年度は。

山田委員 その支援会議として捉えているのは、あくまでもやっぱりこの事業の本年度、あるいはその評価対象期間の部分を抑えてということなので、今後当然続くことを前提に

してとか、一定続くことを期待してという、そこはちょっと若干書き過ぎてしまう部分になってしまうかもしれないです。

やったものがよかったということで健康部長がご判断いただければ、来年度も事業化に向けてということにもなるでしょうし。

藤井座長 伊藤委員。

伊藤委員 入れるとすれば当該事業の終了に向けてだとか、必要であるとか。今やっている実施者、団体と行政、担当課がそのおぜん立てをつくっているわけじゃない。向けて必要ですと、それでいいと思うのだ。その後はそれを土台にしてやっていくか、この事業がなくなってしまうのか、それはまだわからない話で。その継続するにしても何かやっていたものが何かないといけないじゃない。

だから、終了に向けてそういう整理も必要でしょうとか、そういうふうに見えてもしょうがないでしょう。

藤井座長 平井委員。

平井委員 ほかのところも何だ、これはとかあるのですけれども、それは誰に対して言っているのかと聞くと、全部書かなければいけなくなってしまうので、ちょっとそこら辺がどうなのかなと。

これは基本的には団体に対してある意味そこが必要ですよと言っているわけですから。

山田委員 というか、団体と区と両方に対してでしょう。

平井委員 両方に。

山田委員 だから、出すタイミングの繰り返しになるのですけれども。

平井委員 協働事業なので。

山田委員 そう、そう、そう。

平井委員 なので今の時点で行くと何か全部に対して、これは参考までにも何か必要ですとか、何々というような取り組みが必要ですよとか、何とかすることが必要ですよと言っているんで、そうすると全部の形として区と団体はこういうことが必要ですよと入れなくなってしまうのではないかなと思うのですけれども。

藤井座長 本当は前回の会議でもちょっと指摘もあったところですけども、ここの部分については、今山田部長がおっしゃったように区及び当該団体がという主語を入れても不都合はないかなと。ここのところから今度全体のコメントで、先ほどもちょっと話題になりましたが主語が欠けているところもあるのですが、それは文脈の中で理解できるとこ

ろは抑えてということで。この部分については今平野委員ご指摘、あるいは山田部長がおっしゃっていただいたような対応を工夫していただければと思いますがいかがですか。

よろしいでしょうか。

関口委員 はい。

藤井座長 それでは、本日は以上をもって第7回協働支援会議を終える、閉会、よろしいですか。

事務局のほうから何か連絡事項、事務連絡はありますか。会議日程は先ほど、次回は第3回評価会が8月2日2時からですと。

それでは、お忙しいところどうもありがとうございました。

山田委員 ありがとうございました。

— 了 —